

人間の対応力

人間は様々な状況（暑さ、寒さ、生活環境など）に置かれてもそれに対応していく動物だと言われています。新型コロナウイルスで、感染拡大を防ぐために執られた方法「スティホーム」を経験して、生活のリズムを整える大変さを学んだ方も多いのではないのでしょうか・・・世界の誰もが予測しなかった事態になり、人々は恐怖と戸惑いを経験しました。最初は戸惑った生活も、日が経つにつれて自分のリズムを整えていけるものです。

しかしリズムを整えていく過程で、人は楽な方向を選ぶことが多いようです。楽を選ぶと、少しずつ怠け者になっていき、そしていつの間にか身体も心も蝕んでいくことになります。それを避けるためには、まずは身体を動かしながら生活のリズムを整えていくことです。部屋の整理、整頓、掃除、更に動画を見て体操やストレッチなどを行うことで身体もスッキリします。動を継続しながら、次は時間のコントロールです。朝起きる時間と夜寝る時間を決め、良い睡眠を心掛けることです。そして午前中に身体を動かすと、1日の生活が整っていきます。

感染の影響で春・夏の高校野球が中止になり、球児のはつらつとしたプレーやアルプススタンドの応援も見る事が出来ません。野球の応援で使用する337拍子は「ことば音楽療法」のセッションでも多くの場面で使います。スティホームが長くなるとストレスが溜まってきます。その時にはこの軽快なリズムで子どもや身近な人のストレスを軽減したり、自分自身を鼓舞することにも使用して下さい。

会報誌が届くころには、第2波・3波の感染が起こることなく、収束していることを願うばかりです。またワクチンや薬の開発が進んでいることを望んでいます。

そして、通常の生活に戻った時には、スティホームで学んだ経験を生かしていくことです。

(事務局：Y・T)

INDEX

- 人間の対応力 1 ページ
- 10周年の感謝！ 2 ページ
- これから／委員長 高橋亮太郎 3 ページ
- 寄り添う気持ちを持って／古庵優子 4 ページ
- 病棟保育士からことば音楽療法の講師になり感じた事／日高圭子 5 ページ
- 委員長挨拶／日本ことば療法学会組織編集 6 ページ
- <コラム17> 央戸理恵 ● Facebook、Twitter 更新中！ 7 ページ
- 認定校・認定教室 8 ページ

10周年の感謝！（設立：2010年4月1日）

一般社団法人 発達支援協会が設立10周年を迎えることが出来ました。

これもひとえに多くの方々のご協力のお陰だと感謝を申し上げます。 今後も多くの方々との出会いを大切に、障がい児・者のすこやかな発達の支援をしていく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。



理事長 堀田 喜久男

●会報第1号の誌面（2012年6月30日）

VOL.1	2012/6・30日発行
日本ことば療法学会 JULTA <small>Japanese Language Therapy Association</small>	発行 一般社団法人発達支援協会 年2回発行（6月・12月） 〒452-0821 名古屋市東区上田町2-98 TEL&FAX: 052-1506-5255 http://www.julta.jp/jhhs-kotoba-therapists.html Eメール: julta@acorn.ne.jp 発行人: 堀田喜久男
日本ことば療法学会設立 当学会は障がい・者のことばの療法を調査・研究・発表・実践を通して療法の普及並びに推進を図り、障害児・者のことばの獲得、言葉によるコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	
活動内容 (1) ことばの療法に関する学術および技術の研究 (2) 学会誌の発行 (3) ことばの療法の講演会及び講習会などの開催 (4) ことばの療法に関して関連団体との連携及び交流 (5) ことばの療法についての相談・指導	
日本ことば療法学会設立総会開催 日 期：平成24年3月20日（火曜日） 場 所：13:00~16:00（日時間） 16:40解散 場 所：伏見ライオンプラザ12階 NPOセンター会議室 参加人数：11名	
まだまだ過ぎが身にしみる平成24年3月に日本ことば療法学会の総会が開催されました。学会の設立に賛同された13名（欠席2名）の委員の方々が全国から出席して頂きました。委員長の設立の挨拶に始まり、委員の方の自己紹介、日本ことば療法学会の活動内容や方向性に関して、多くの意見が交わされ、無事終了することができました。	
目次 日本ことば療法学会設立 委員長 設立に際して……………堀田喜久男 副委員長「ミニカード歌のついでら」後藤 浩子 各委員の紹介とメッセージ 行儀（福岡県）支部だより……………工藤 知子 障害児通所支援をはじめには……………赤崎 俊夫 コラム・情報……………内戸 理恵	



歩み

- 2010年4月1日設立
- 日本ことば療法学会設立：2012年4月1日 学会7回 開催（年1回）
- ことば音楽療法士の基礎セミナー受講人数：全国1,500名以上
- ことば音楽療法士 認定者190名
- ことば音楽療法：認定校：2校 認定教室：25教室
- 一般社団法人 発達支援協会 叢書10冊出版
- ことば音楽療法 商標登録：登録第6221161
- 会報誌発行：NO16（年間2回）（2020年4月 現在）



展望～2030年へ向けて

- ことば音楽療法士育成事業：1,000名育成 認定教室100校 認定校10校
- ことば療法の紹介事業：全国各地の支援学級、特別支援学校、各施設等へ
- 時代に即したネット事業：オンラインセミナー、セッション、ワーク、コンサルタントなど
- ことば療育センターの設立事業：5か所設立



「天災は忘れた頃にやってくる」…まさに。オリンピックイヤーとして華々しく明けた正月に誰がこの展開を予想できたでしょうか、スペイン風邪から102年後のパンデミック。1月「武漢で新型肺炎？」のニュースをみて「おーおー、大変だなあ」と他人事のように呟いていた頃から数ヶ月、ウィルスはあっという間に世界中を席卷してしまいました。以前小欄で「天災もひっくるめてそれも自分の人生」と書きましたが、あれから3年でまさかパンデミックに遭遇するとは。

個人的には意外でした。外国人の多くは家で靴を脱がない。赤ちゃんは、そこをハイハイして、その指をしゃぶって育つ。だから子供のうちから凄い免疫能力を備えている。一方でキレイ好き、抗菌グッズで抵抗力が落ちた時に万一パンデミックが来たら、軟弱な日本人から消えていくのだろう…と置いていたらどっこい凄いぞ日本人… 実際のところは、今回はアジア人全体が欧米とはケタ違いでサバイブしているため人種的な要素、或いはBCGなど予防接種が効いた説もあるそうです。とはいえ朝ドラで志村さんを見るたびにツライのは私だけではないでしょう。私たちの先祖には記録が何かあるのかと思ったら、しっかりありました。

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは…」

ご存じ方丈記（鴨長明）の有名な冒頭ですが、この書は平安末期から鎌倉時代初期、12世紀末の日本の惨状を描いた貴重な災害記録でもあります。そこには大地震、洪水、竜巻など近年私たちが襲ったのと同じ天災が描かれているのですが、大干ばつによる養和飢饉とともに疫病にも見舞われていました。京都中心部だけで4万以上の路上死体が確認されています（仁和寺）。今さらながら、天災は地震津波だけではなかったのです。

国の対応も問われます。ブラジルやアメリカなど、優秀なトリマキがいても権力者があつた国家としては「脳死」に近い。悪しき記憶として歴史に残るでしょう。日本だって10万とはいえベーシックインカムが一瞬実現したのはよかったけど、一番最初の「非課税世帯のみ支給」だったら今ごろ大変でした。首相と財務大臣がポンポンというのは国民の背負ったリスクということが露

呈したわけです。しかし物事には側面もあって、地球がきれいになった。実際にCO2も減ったそうです。なにせ工場は稼働しない、クルマや飛行機も動かない。じゃあ自然に良かったというと、今度は監視が減って密猟が野放しになっているそうです。

時代の流れはこんなにも簡単に変わってしまうのですね。今から私たちはどっちを向いて、何を目指していけば良いのでしょうか。答えはありません。就労も消費も学習も恋愛もそのありようは変わるだろうし、誰もが自分の人生を見据えて新たに挑戦していくしかない時代。というより、地球から世界のみなが変わるチャンスが投げられたのかもしれませんが。在宅で仕事ができる、オンラインで結婚式が挙げられる、会議が日本全国、いや世界規模で同時にできるetc. 通勤にも時間と体力を取られなくて済むなら年間5~6百時間が浮くから何か別のチャレンジができる…。でもネットは万能ではありません。少し前に「サバイバルファミリー」という、ネットも家電も乗り物もいっさい使えなくなる映画がありましたが、ネットに過度に依存した生活に慣れてしまうと、それが使えなくなった時に対応できる能力が失われてしまいます。

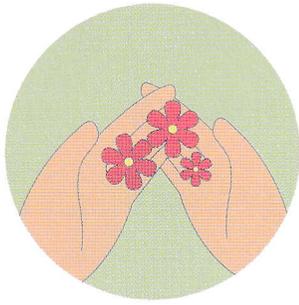
何事も、経験しなけりゃわからない。

何事も、従来の延長線上にあるとは限らない。

何事も、自分のアタマで考えて

適応していかなければいけない。

ある意味シンドイ時代に入りました。大震災の後は、朝起きて自分の家が昨日のまま建っているってなんて有り難いことなのだと感じましたが今度は違った天災で、企業も雇用も何年続くか世界規模で本当にわからなくなりました。ボーナス払いなんてバクチ、公共交通機関に乗るのも覚悟が必要、学校で授業と部活ができるなんて奇跡、そんな感覚が芽生えました。自分に、国家に、世界に何かあるたびに新しい生き方を模索するためには知識と経験を生かすアタマ、ベースにはカラダとこころの健康、そして前を向こうとする人とのネットワーク。持ってる使命はデッカイけど、私たちはまだ小さな組織です。お互い声をかけあい、時には支え合って頑張ってくださいませ。



寄り添う気持ちを持って

古庵音楽教室（和歌山県）

主宰 古庵 優子

私が「ことば音楽療法」と出会い、大阪の認定校・深谷先生の元へスクーリングに通わせていただいたのは、2019年4月のことでした。

一番最初の講座を始める前に、深谷先生がお話してくださったことを、今もハッキリと覚えています。

『ブレない気持ちを持つこと』

この言葉は、私の胸の奥までしみわたり、改めてことば音楽療法士への熱い意欲が増すのを感じました。どんなに重度のお子さんでも、「通じないから」ではなく、信念を持って常に心をベースに声がけしていく・・・そういう気持ちを持って発する「言葉」や「音」だからこそ、通じる日が来る・・・ということ、深谷先生のいくつもの体験談と共にお話してくださいました。

スクーリングでは、毎回新しい学びに感動し、帰り道は毎回充実感でいっぱいでした。

私は今、和歌山市内の3か所の事業所さんへ行かせていただいています。どの事業所さんも、ことば音楽療法が繋げてくれた大切なご縁を感じ、毎回のセッションを楽しみに行かせていただいています。

ある事業所さんでは、月に一度、親子で集団セッションをしています。2歳～8歳までの子供さん達は、発達にかなり個人差があり、年齢差もあるため、どう進めていこうかといういろいろ悩みました。そこで毎回のセッション後に、親御さんから任意で、感想と子どもさんのご家庭での様子などを教えていただく事にしました。そこから見えてきた事は、本当に新たな発見ばかりでした。

セッションでは全く動かなかったお子さんも【ふとした時、あー、うーの口の形を真似するようになりました】とか、【337拍子のリズムを打ちながら遊ぶようになりました】【あっちゃんあがつくの歌を、よく口ずさんでいます】など、うれしい報告をたくさんいただきました。他にも【親はどうしても、早く言葉を理解してほしい気持ちが先走りますが、楽しみながら身体になじませていくのが、とても良いですね】とのお声も。

ですが、集団セッションがゆえ、親御さんの方が他のお子さんと比べてしまい、ナーバスになってしまうというケースも耳に届きました。

『今はできないかもしれない、でも、できた時の喜びを知ってほしいから』

その喜びを共に分かち合い、親御さんの気持ちにも寄り添えることば音楽療法士でありたいと思っています。



病棟保育士から ことば音楽療法の講師になり感じた事

どれみだんけ(東大阪)

療育指導者 日高 圭子

私はことば音楽療法士になる前は病棟保育士を9年していました。対象は小児病棟に入院している0歳から18歳までの子どもたちで、それぞれ抱えている疾患や状況は様々でした。病棟保育士は通常の保育所の勤務とは違い、個人の状態に応じた対応を求められ、カリキュラムなどはなく成長発達に応じて保育内容を変えていく必要があります。入院中は社会生活から離れ、制限が厳しくなることで子どもたちはそれまでできていたことができなくなります。様々な理由での活動制限がある中では「現状を維持すること」さえとても難しかったのです。保育士は子どもの持っている能力の現状維持を目標に関わりや保育を進めていきました。子どもたちにとって何がベストなのかを考えることは、保育士の経験や発想力が問われるのと同時に瞬発的な対応力も必要となり、病棟保育士はその引き出しを増やすことに努める毎日でした。

その経験は現在の職場である「どれみだんけ」での講師としても同様で、「障害児の発語を促し学習能力の向上、社会自立を目指す音楽療法」という、ことば音楽療法が持つ意味を踏まえた上で、具体的に「ひらがなが読めるようになる」ということから「相手の話を聞きコミュニケーションがとれる」などの様々な支援目標に沿って学習を進めていき子どもたちと向かい合っていますが、子どもたちそれぞれに合った対応が必要とされ一筋縄ではいかないことを強く感じています。私は療育という仕事に携わるのが今年で3年目になりますが、障害の特徴や子どもたちの育ってきた環境により形成されてきた子どもたちの性格、親御さんの思い、子どもたちの求めていることなど子どもの個性を理解するのにまだまだ難しさを感じます。どうすれば、子どもたちが生きていくうえで少しでも困りごとを小さくしていけるのか？どう工夫すれば生きやすくなるのか？どんなことを学び進めていけば子どもたちが生きることに対して前向きになることができるのか？日々レッスンをしていながら考えていくことが大事で、そこに講師としての悩みが出てきます。

病棟保育士をしていた時にも個人対応する場面が多かったのには違いなかったのですが、関わりとしては「入院中」という一時的な期間で、その時をどう過ごしていくかを考えていました。今の仕事である講師として子どもの人生を思い、関わることの重要さに戸惑うことがあります。これは尽きることがないのだと思っています。まだまだ私にとっては難しい仕事ですが、子どもたちに対して愛情を持って取り組む事で子どもたちを育て、また育ててもらえることができると信じこの仕事を頑張っていきたいと思っています。

ことば音楽療法学会 委員長就任のごあいさつ

高橋 亮太郎

このたび、堀田先生のなさっていた委員長を継ぐことになりました。世の中は新型コロナ肺炎で混んとしている中、療育にかかわる人も親御さんも先の見えない状況でお子様の将来に不安を抱えていらっしゃると思います。このような時にかかる大任を拝することは私にとっても大きなチャレンジであり、皆さまが持てる能力にさらに磨きをかけてそれが世に還元されるよう、お手伝いできればと存じます。

私は小さい頃から近所の自閉症児と家族ぐるみで接しながら育ち、小・中・高と養護学級（当時）の児童たちと身近に育ち、まるで今の仕事のために準備をさせて頂いたかのようです。音楽療法には高齢者領域から携わり、障がい児向けプログラムについて考えていた時に堀田先生のことば音楽療法に出会い、「これは！」と思い参加、現在に至っています。

幸い、堀田先生も回復基調にあります。日本中のことばに難を抱えた児童に音楽で発語をもたらして、先生にも喜んで頂きましょう。

日本ことば療法学会組織編集

堀田喜久男先生の健康上の理由により組織の変更を行うことになりました。

組織変更に伴い2020年1月26日に新委員も迎えて組織編集会議（名古屋）を開催しました。

会長：堀田喜久男 相談役：徳田和恵 ・ 後藤浩子
委員長：高橋亮太郎 副委員長：宍戸理恵
委員：工藤知子・土田靖子・深谷靖子・上野奈央・小紳紳一
事務局：赤崎倫夫・高田陽司 ・ 水尻真美香（広報）



三部活動

◆ 学会の普及活動

（チーフ：水尻真美香）

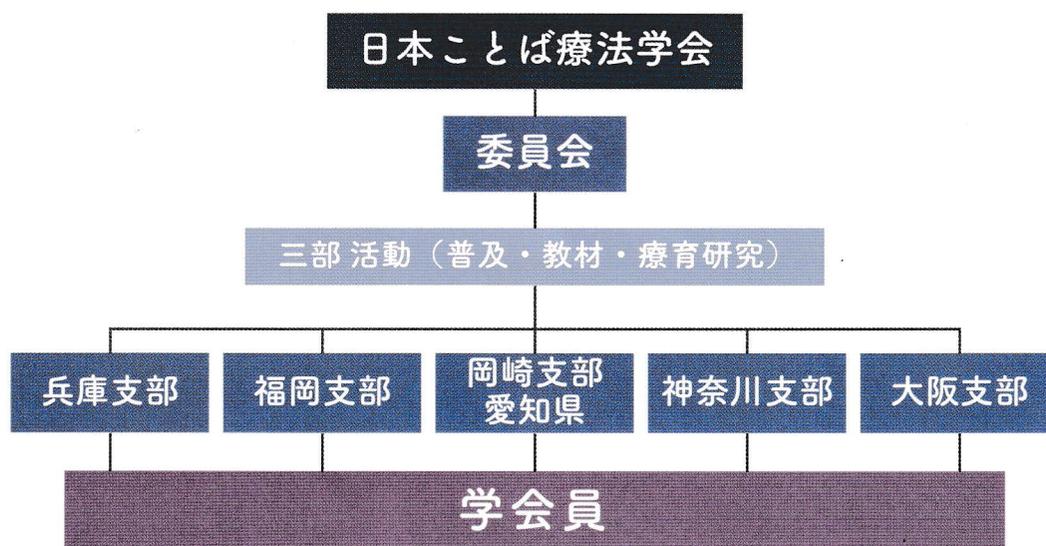
◆ 教材開発・研究の活動

（チーフ：深谷靖子）

◆ ことば療育の研究活動

（チーフ：小林紳一）

組織図



コラム⑱

穴戸 理恵

ことば音楽療法士を養成するインストラクターとしてスクーリングを行っています。受講される方が絶え間なく来られます。日本各地でたくさんのことば音楽療法士が生まれています。熱心な方ばかりで勉強を始めるとすぐにそれぞれの職場等でいろいろと実践され、子どもたちの変容に手ごたえを感じていらっしゃるようです。

職場でことば音楽療法を行う機会がなかなか持てない方も、子どもさん送迎の車の中でうたったり、ちょっとした隙間の時間に個人に数え歌などを行ったりされています。

そんな中で最近、特に思うことは堀田先生が書かれた『歌にのってことばが出せたよ』と『言葉遊び歌が発語を促す』の2冊をあらためてじっくり読む必要があるということです。原点を大切にするとともに、この2冊は読めば読むほど毎回深い発見があります。さりげなく書かれたようなところにいろいろなヒントが隠れています。セッションの情景が浮かんできます。「音楽療法」の「音楽」の部分の大切さを感じられます。

また、横長の指導書も、各内容の後ろの方の部分（例・お金のうたの最後の2ページやあっちゃんあがつくの後半等）のセッションの取り扱いの熟考が必要と思います。あっちゃんあがつくでは数の学習との関り（何番目）や文法の定着も行えます。セッションプログラムの組み合わせや同じ単元でもお子さんの段階に合わせた内容に展開ができます。

マラカスのうたで左右違うもの（りんごとみかん）を持たせたセッションでは認識・判断力・言われた方を上げる身体の動きを促します。（リトミックの即時反応のように。）

また、『つながりことば歌』と『歌う日本語練習帳』の初めや最後の方にある堀田先生が書かれた取り扱い方法の文の部分もいろいろな気づきがあります。

Facebook、Twitter 更新中！

一般社団法人 発達支援協会



認定教室や使用教材の紹介、資格者情報など毎月更新中！



Facebook



Twitter

アカウントを持っている方は
ぜひフォローや「いいね！」をお願いします！

～認定教室の先生方へお願い～

月に一度、認定教室の紹介を「ことば音楽療法」のHP記載の登録番号順にさせていただきます。SNS担当の水尻より、メール（もしくはお電話）にてご連絡させていただきますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

どなたでも
見ることが
できます！



一般社団法人 発達支援協会 認定校・教室

認定校

■名古屋市

【発語音楽研究所】

療育責任者：堀田喜久男

■大阪府東大阪市

【深谷音楽教室】

主宰者：深谷靖子

発語音楽療法

検索

認定教室

ことば音楽療法の認定校・教室です。各教室が事務局にお問い合わせください。

認定校・認定教室を全国にて募集しております。

TEL & FAX：052（505）5255＜事務局＞

各教室へのご連絡はホームページ『ことば音楽療法』をご覧ください。

◆関東地区◆

⑨ 東京都江戸川区【ことば音楽療法 あ・い・う・え・お】 主宰者：嬉 利恵

⑰ 千葉県習志野市【千葉ことば音楽教室】 主宰者：小林紳一

⑳ 埼玉県蕨市【mana ことば&音楽教室】 主宰：広井真奈

◆東海地区◆

② 愛知県【SiSiDo Music room】 主宰者：穴戸理恵

④ 三重県【樋口音楽教室】 主宰者：樋口なおみ

⑩ 愛知県碧南市【ひだまり教室】 主宰者：小笠原清恵

⑬ 愛知県常滑市【長鎌音楽教室】 主宰者：長鎌明美

⑯ 岐阜県大垣市【music room SORA】 主宰者：兒玉貴栄

㉕ 愛知県知立市【ことば音楽療法 はらっぱ】 主宰：原田悦子

◆関西地区◆

① 大阪府【さゆり音学院】 主宰者：土田靖子

③ 京都府舞鶴市【でんでんむしの会】 主宰者：松浦光子

⑦ 京都府舞鶴市【さがん発語音楽教室】 主宰者：目美香

⑧ 大阪府枚方市【安宅ことば音楽療法教室】 主宰者：安宅千世子

⑫ 兵庫県芦屋市【きじ猫 音楽工房】 主宰者：上野奈央

⑭ 大阪市都島区【音楽セラピーみゅーじっくらんど】 主宰者：末吉裕美

⑮ 大阪市平野区【一般社団法人みらいぴっころ】 管理者：森嶋裕子

⑱ 兵庫県西宮市【みずしり音楽教室】 主宰者：水尻真美香

⑲ 京都市北区【御園橋ことば音楽教室】 主宰者：中島真治

⑳ 奈良県奈良市【にこにこムジカ】 主宰者：大井裕子

㉑ 和歌山県和歌山市【古庵音楽教室】 主宰者：古庵優子

㉒ 大阪府八尾市【ことばの教室 Warauta(笑歌)】 主宰：馬場富美江

◆九州地区◆

⑤ 福岡県行橋市【ことばの音楽教室】 主宰者：工藤知子

⑥ 福岡県遠賀郡【りずむの木】 主宰者：石井純子

⑪ 福岡県行橋市長木【ことばの♪パッソ♪教室】 主宰者：松尾範子

㉓ 福岡県中間市【まこちゃんことばの音楽教室】 主宰：久保真奈子

※数字は認定順



まこちゃんことばの
音楽教室(福岡)

ことば音楽療法士 認定者 ▶216名（受講中も含め）令和2年6月現在

一般社団法人 発達支援協会 事務局

〒452-0821 名古屋市西区上小田井2-98 JHTA内 TEL & FAX:052(505)5255

ことば音楽療法 日本ことば療法学会

検索